

## 令和4年度教育事業 森の子キャンプ



### 1. 目的

曽爾の森林環境の中で思い切り遊ぶことを通して森のしくみを知り、自然を大切に思う心を育む。

### 2. ねらい

- ①小学校低学年に自然体験と生活体験を提供する
- ②森林を場にした環境教育（自然にふれ、思い切り遊び、感じる）の機会とする
- ③曽爾におけるプログラムの特色化の試行の機会とする

### 3. 実施日

- ①6月のキャンプ  
令和4年6月25日（土）～26日（日）
- ②11月のキャンプ  
令和4年11月5日（土）～6日（日）
- ③12月のキャンプ  
令和4年12月24日（土）～25日（日）

### 4. 対象者

小学1年生～3年生

### 5. 参加者 / 募集定員

- ①27名 / 20名
- ②21名 / 20名
- ③20名 / 20名

### 6. プログラム（要約）

参加者が主体的に自分の意思で遊びをつくる「森の自由遊び」を中心に、基地づくり、たき火など、きっかけづくりとしていくつかの選択肢を提示し、それから参加者自身がプログラムを膨らませていった。

12月のプログラムは降雪もあり、雪遊びにも広がった。木登りや穴掘り、シーソーづくり、ピタゴラ装置づくりなどに展開していった。5～6人程度の小グ

ループで生活し他者とも関わる機会を作り、保護者から離れての宿泊、生活体験も重視した。

森じゅうを走り回り、様々な自然物に心躍らせ、遊びに変えていく。子どもたちはまさに遊びの天才であり、遊びの中から、森の構成、色合い、木々の作りを体感していたようだ。

### スケジュール

	主なスケジュール
1日目	榛原駅北口（集合） はじまりの会 昼食（弁当） 森の自由遊び 夕食（食堂） キャンプファイアー
2日目	朝のさんぽ 朝食（食堂） 森の自由遊び クラフト（木のフォークづくり、松ぼっくりツリー） 昼食（ちゃんこ鍋） おわりの会

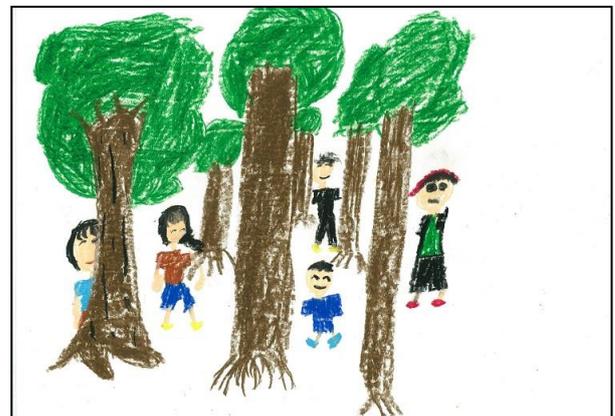
### 7. 調査

事前と事後に絵を描いてもらい、その違いについて比較し、どのように自然の認識が変化し、体験が意識づけられているかを考察した。

#### ① 事例1 A児



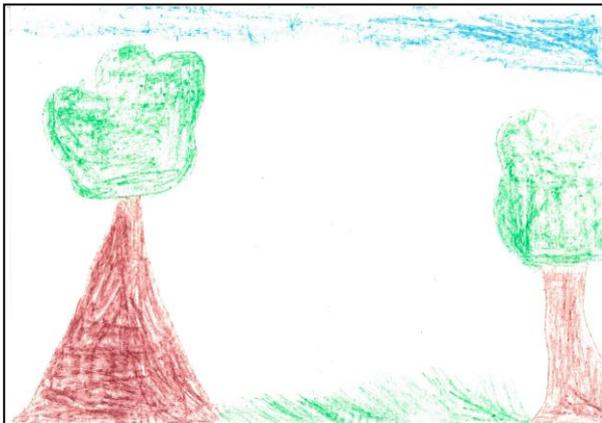
上：キャンプ前に描いた絵



下：キャンプ後に描いた絵  
キャンプ前に描いた絵と後に描いた絵の、木の色が

違う。濃くなっているのは自分が実際に見た木の色に近くなっている。友達と指導者が描かれ、表情はすべて笑顔である。森の中での遊びが楽しかったことがうかがえる。

## ② 事例2 B児



上：キャンプ前に描いた絵



下：キャンプ後に描いた絵

実際に遊んだ森の一つ一つの木々が詳細に描かれている。とくに枝のいろいろな方向に伸びている感じの描写が細かくなった。

## ③ 事例3 C児



上：キャンプ前に描いた絵



下：キャンプ後に描いた絵

キャンプ前に描いたのは、大きな木の間に絵本的な鹿がいる絵。キャンプ後に書いたのは、森の中でたき火をして（おそらく）喜んでいる絵。日差しに負けず炎や煙が森の中に漂う。その印象が大きかったのだろう。

## 8. 保護者アンケートから

- ・その日の出来事について、あまり話さない子なのですが、自分から「聞いて！」と言ってきたので、とてもびっくりしました。キャンプに帰ってきてから自分で髪を乾かすようになりました。
- ・自分から話しかけたりすることが不得手で家族のいない状況でも他人とかわかれるようになってくれたらと思っていました。迎えに行ったときは疲労感、安堵感、そして達成感があつたように思います。「あー、この時間は曾爾でお風呂に入っている時間や」「この時間は夕ご飯食べてるころや」と、時間でその時していた行動を思い出すようでした。家で食後の食器は自分で片づけて流しまで持ってきてくれます。
- ・とても楽しかったようで、たくさん話を聞かせてくれました。友達ができたこと、シーソーを作ったこと、朝の散歩はきれいだったけど寒かったこと、フォークを作ったことなどです。親から離れて初めてのお泊りで少し心配でしたが貴重な体験をありがとうございました。

## 9. まとめ

曾爾の豊かな森林を大切に思うようになるにはどうしたらよいか。森の中でたくさん遊んで、楽しかった思い出から森への愛情の醸成へとつながるようプログラムを企画した。朝の散歩の時間にススキの大草原を歩く、木に登る、木を切る、木を見る、小学校低学年は知識での理解より、体感させることを重視した。

感想や描かれた絵を見ると、それぞれが自然を体感したことがうかがえる。子どもが主体性をもって活動できるようリーダー（ボランティア）も子供の意思を尊重し時間を過ごした。「関心の喚起」や「生命との関わり」「豊かな感性」「好奇心」そして「思考・判断・表現の基礎」が、興味関心へつながり、森を大切に思い、守り育てる意思へとつながっていくと思う。

（企画指導専門職 高瀬 宏樹）